

## ビクターを音楽で支えた三巨人!

中山晋平・藤原義江・吉田正

ニッパ「犬」とビクターの仲間たち

熊倉 雄三

不景気オンパレードの暗い昨今ですが、現役の皆さんの頑張りで日本ビクターの存在が大きくクローズアップされて来たのは誠に嬉しい限りです。また私共のグループの寿会ニュースへの出稿に対してお誉めの言葉を誌上で頂いたことは大変に有難いの一語に尽きます。またMDとCDを組み合せた世界で始めてのビクター・カー・オーディオが誕生したと云う日経新聞の記事には思わず大拍手しました。米寿ナンソノの気持で頑張りましょう。

思えば中山晋平先生作曲になる「波浮の港」で幕を開けた昭和の御代から七十三年が経過、あと二年で二十一世紀を迎えようとしていますね。

(中藤武門) 中山晋平が昭和二年に日本ビクター専属作曲家になられてから、先生が既に大正時代にお作りになっていた「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「てるてる坊主」「船頭小唄」「砂山」「雨降りお月」「証城寺の狸雅子」等の

名作が一斉にビクターでレコード化されて日本中が晋平メロディー一色に塗りつぶされた時代になりました。

(尾村まさ子) 先生が二十七才の時に作曲された処女作が「カチューシャの唄」だったんですね。エリツイン大統領の来日でロシアと云う国が脚光を浴びて来たせいかしら、トルストイの「復活」のテーマ曲の「カチューシャの唄」がラジオに流れていたの。(笑声)

(中藤) そして昭和四年に「東京行進曲」八年に「島の娘」と「東京音頭」が発売されるに及んで、童謡から新民謡、そして歌謡曲の分野にまで中山先生の黄金時代が続くことになるのです。

(熊倉) チョット待つて下さい。今朝の朝日新聞の朝刊を見ていて驚いたんです。「昨年度は優勝したのに今年は一連敗でスタートしたヤクルトが、四月二十二日の対中日戦で、一イニングで十三点をあげてプロ野球タイ記録と云う信じられない光景に、貧打を見続けて来たファンが大喜びで、「東京音頭」の歌声が神宮の森に何度もこだました」と大きく囲みでのつていましたヨ。レコードが出てから六十五年も経っているのですヨ。

(中山梶子) 父が「東京音頭」を作曲した昭和八年に私が父の曲の「坊ちゃんいくつ」でデビューしました。まだ中野の小学校の一年生で……」

(熊倉) 私のビクター文芸部入社は昭和九年ですから梶子ちゃんは私の先輩なんだ。(笑声)

(尾村) 私は築地小学校四年でビクターへ。

(佐久間節子) 私がビクターへ入ったのは芝桜川小学校三年生。ところで私はO型、梶子ちゃんがB型、まさ子ちゃんA型。だから私たち仲良しなのネ。(笑声)

(熊倉) ナールホド(笑声) お三人の方よ、今後とも何卒ヨロシク……。ところで、昭和十年七月一日に、東京宝塚劇場で「中山晋平氏作曲生活二十年を祝して」と銘うって、ビクター芸術家総動員の「日本ビクター実演大全」が開演しました。とても出演者全員を紹介出来ませんが、勝太郎、三島一声、藤山一郎、小林千代子、佐藤千夜子、徳山漣、藤原義江、四家文子、渡辺はま子、古川緑波其他書ききれませんが、此の人を落としてはいけません。入社二年目で漸く中学生になった此の人、中山梶子ちゃんが「雨降り」を歌って居ります。ところで、此の華やかな大全を

最後に大陸の戦雲が次第に激しくなってきた行くのですが、歌の世界も軍国歌謡一色になって行きます。皆さんも随分歌わされたでしょう。

(尾村) 古川緑波と清川虹子の出演映画の中で「中国民愛国歌」を歌ったわ。「愛国行進曲」「太平洋行進曲」「愛馬進軍歌」など、大人の歌手と一緒に軍歌ばかり。童謡を吹き込ませてくれなくなったのが淋しかった。

(佐久間) 私が何んと言っても忘れられないのは、市川猿之助一座東京劇場公演に一ヶ月間も出演して愛国行進曲を歌ったことなの。それに戦争中の何時だったか忘れたが、海軍記念日に銀座の方から行進して来た海軍軍楽隊の皆さんに花束を渡すのが私の役目だったの。神田今川橋のビクターの前だったかしら？此の日のために母が手造りで造ってくれた可愛い水兵服をパレードの記念にとっていたのを空襲で焼かれてしまったのは残念だったわ。

(中山) 「兵隊ゴッコ」「僕等の神風」「ほまれの戦車」なんか吹き込んだのを覚えています。昭和十七年頃から敗戦色が濃くなり、勤労奉仕の毎日で、兵隊さんの衣服の繕いなんかに明け暮れました。

(熊倉) そして我々ビクターの戦後が始まるのです。ビク

ターの戦後は吉田正先生の「異国の丘」に始まり、数え切れないヒットを飛ばした吉田先生に支えられたものが多かったです。ロック系統は別ですが。私はそんな感じがしてなりません。さて、過日、帝国ホテルの大広間で先生のご招待に依る「吉田正作曲生活五十年」の大パーティがあり、日本ビクター守随社長、富塚社長、渡辺三郎寿会会長をはじめ、ビクター関係OB名士多数が招かれました。不肖熊倉に不肖中藤武門君もご招待にあつかりましたが(笑声)、何と京都から揃いの衣装の一流芸子が生の音曲で客席の間を踊りぬつて舞台上で見事な祝いの踊りをご披露されたのは感銘しました。続いて展開する吉永小百合、和田弘とマヒナスターズ、橋幸男、三田明他吉田門下生総出演の豪華なショウです。尚他社関係の作家・歌手の名士の来席も多く、流石は日本の戦後の歌謡界を締め括った大御所と感じました。

(尾村) 戦前戦中は中山晋平先生と「われらがテナー」藤原義江さん、戦後は吉田正先生。此の御三人が二十世紀のビクターを支えた御三人ということになりましようかナ。

(笑声)

(熊倉) まさ子ちゃんは、いつから音楽評論家になったのかね。(笑声)

(尾村) 評論家じゃありませんの。私、今歌を教えていませぬ。ところでクマさん！私最近ビクターの広告を見て不思議でならないのはビクターの会社名が虫メガネでなければ見えない位小さいの。カレンダーもそう。私が持っている此のビクターの今年の手帳も、ホラね。年号の∞は金文字でプレスしてあるのに、VICTORの文字は黒で全く見えないの。クマさん、これどうしてなんですの？

(熊倉) 広報室に聞いて見ましよう。(一同大笑いで幕)

寿会ニュースNo.408号 平成十年(1998)八月